

# 六甲アイランドの団体活性化と住民の活動参加を応援する事業



特定非営利活動法人きょうどうのわ

## 1. 事業を始めたきっかけとこれまでの経緯

NPO法人きょうどうのわは神戸市東灘区の六甲アイランド(2万人)で、持続可能な地域づくりに取り組んできた。「活動をもっと多くの人に知ってもらいたい」という地域団体共通の課題を解決しようと、2023年からスタートした「六アイ・コミュニティフェスタ」は今年で3回目を迎えた。六甲アイランド地区はまち開きから35年以上が経過し、新旧の多様な団体が活発に活動しているが、それぞれの団体が直接住民と交流・面談する機会は少なく、活動見本市形式のイベント開催は、住民が地域資源を知るという点では画期的なものであった。手探りで始めた初年度であったが、27団体が参加し、来場者も300人を超えるなど「様々な団体が活動していることを知ってもらう」という第一目標は達成できた。33団体が参加した第2回は「活動のすそ野を広げ担い手を開拓する」という目標を立て、団体の活動内容を紹介するだけではなく、活動への参加や見学の呼びかけを強化した。フェスタのあと「活動現場見学ツアー」を実施したことによって、多くの新規活動者を獲得することができた。

## 2. 今年度の活動内容

実行委員会を組んで企画を進め、9月28日、神戸ファッション美術館4階を会場に「第3回六アイ・コミュニティフェスタ」を開催した。最多となる38団体が出展し、来場者は330人を超えた。来場者は、毎回老若男女問わず幅広い層であるが、アンケートによると40代以下が約半数を占めた。また男性が多く参加(約4割、初回と比べて倍増)したことが特徴的であった。

初の試みとしてプレイベントに東灘区長のミニ講演会を実施、70人が参加した。またフェスタの中間にPRタイムを設けたところ、12団体が名乗りを挙げ、メンバー募集や見学募集を熱く訴えた。会場全体にアットホームな空気が流れ、なまの声で活動を知ることができたと好評だった。これらの仕掛けによって来場者の滞在時間が長くなり、盛況感が出た。

第3回にして従来の地域団体・地縁団体に加え、警察や神戸市協働局など行政、企業・銀行・NPOなど民間、島内の美術館・大学・女子学生会館など多分野からの出展が実現し、多様性が増した。会場に設置したシールアンケートでは、9割を超える人が「地域にこのようなイベントが必要」「ボランティアをしてみたいと思った」と回答した。当日の様子は神戸新聞に掲載され、後日メディアロッコウで配信(3年連続)された。10月には「活動見学ツアー」を実施し、10人が参加して8団体を回った。

## 3. 成果と課題

成果は、①出展団体の増加②多様な分野からの参画③男性や現役世代住民の来場増加である。今回もアンケートを実施し、150件の回答を得た。フェスタ初参加が半数を超えており、その大半が「活動経験はないが、地域に少し関心がある」と回答していることから、六アイ住民のポテンシャルや活動のすそ野がさらに広がる可能性を把握できた。今後は、「少し関心がある」と答えた層を活動参加につなぐために、①フェスタのようなイベント②日常的なサポートの仕組みの両方が必要であると考えてる。

## 4. 今後の展望

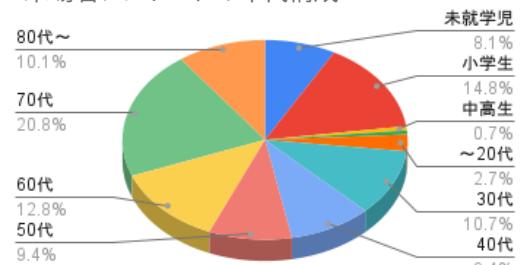
アンケートによると、来場者からも出展団体からもフェスタ継続を望む声が多く寄せられている。また今回は、地域貢献や住民サービスを担う官民の多様な機関も、住民との接点を求めていることがわかった。

3年間の本助成の支援で、住民に見える形で、地域を支える大きく緩やかなネットワークを構築し、持続可能な地域づくりに舵を切ることができた。今後も地域団体と協議する機会を持ちながら、六甲アイランドの活動活性化を進め、かつ地域外へも発信できるような事業を展開していきたい。

\*2/7には事業報告&団体交流会を開催し、次年度について意見交換、事業を進める予定。



来場者アンケートの年代構成



活動経験の有無と地域への関心

